

2011年2期 多文化コミュニケーション入門 II

担当者から受講修了生へのメッセージ

自分が作りたい社会=文化をめざして一何のためのコミュニケーションかー

牲川波都季

このクラスの授業タイトルは「多文化コミュニケーション入門」です。コミュニケーション能力を身につけたほうがいとよく言われますが、そもそもコミュニケーションとは何かを達成するためにするのではないのでしょうか。

このクラスでは、受講生一人ひとりが自分にとっての大切な社会を発見するというプロジェクトを行いました。これはみなさんがテーマに選んだ社会です。

| | | |
|-------|----------------|--------|
| 友達 | 家族 | 自然 |
| 地元の友人 | 大切なモノ | 結婚 |
| 大学 | 私が生活している社会 | 国際交流会館 |
| 学校 | 今暮らしている社会 | 社会 |
| 食 | 私の居場所 | 情報社会 |
| 人間関係 | 環境 | 旅行 |
| 人情社会 | CHANBOY'S CAFE | アイドル社会 |
| 仕事 | バイト | 意見 |
| | | 音楽 |

しかし同じ「仕事と私」であっても、「仕事社会」の内容や位置付け、そこでどうしていきたいかは、一人ひとり違ってきます。たとえば、あるグループは3人とも「仕事と私」をテーマに選びました。けれどもどんな仕事をめざすかも、それをどれほど具体的に考えているかも、またなぜその仕事に就きたいのかも全く違います。詳しくはウェブで読んでみてほしいのですが、留学生のAさんは四ヶ国語が話せることを生かし通訳になりたいけれど今は中国も就職難、しかし自分の仕事をして給料をもらい、好きな人と結婚して生活するのを夢見ています。4年生なので具体的に仕事を考えないといけない。SさんとFさんは一年生です。Sさんは自分の専門を生かして大企業に就職すること、しかし大学院で勉強を続けてから就職したいということです。まだどんな仕事をするか、はっきりイメージは決まっていません。Fさんは1年生ですが、おじいさんの病気を強いきっかけに看護師になる夢を固め、人の役に立つ仕事をしたという子どものころからの夢を実現しようとしています。

同じ仕事という社会であっても、それをどのように捉えるかはこんなに一人ひとり違ってきます。社会というのは、違った内容の社会が存在しているというよりも、イメージとして一人ひとりがもっているものなのではないでしょうか。

たとえば私は、秋田大学の国際交流センターという、一つの社会で今働いているわけですが、私が見ているその社会と、別の同僚が見ているその社会の姿はまるで違っていません。同じセンターで働く教員であれば、仕事場所も仕事内容も基本的には同じはずですが、けれども、国際交流センターの中にいる人をどんなふうに見ているか、そこでの仕事をどんなものと捉え、そこにどんな意義や価値を見いだしているのか。それは全く違うように思います。国際交流センターのように、名前は同じ社会であっても、各自にとってその社会の見方は異なっています。何か確かな、真実の社会というものがあるのではなくて、一人ひとりが異なる社会像を持っているのです。

ほかの人もこの社会をこう思っているはずだとする「常識」は、非常にあやふやなものでしかありません。隣の人は全然違うようにその社会を見ているのかもしれない。だから、その社会で自分のめざすことを達成したり、その社会を変えていきたいならば、自分が考えていることを声に出して伝えるしかありません。自分の考えていることと、ほかの人の考えていることには必ずずれがあります。ことばにして出したところで、そのことばについての理解も人それぞれ違うでしょう。だからこそ、自分の考えを話し、相手からも話してもらってどれくらいわかってもらえたかを確認し、そのうえでさらに伝え続けていく必要があります。そうすることで、自分自身の考えに基づいてその社会で目的を達成できます。

このクラスでは、自分にとって大切な社会とはどこでそれはなぜか、またそこでどうしていきたいかを考えてもらいました。それは、自分が何に向かってコミュニケーションしていくのかを、確かめてほしかったからです。今の自分にとって、コミュニケーションし続けていく価値のある場はどこなのか、そこでどのように生きていきたいか。こうした目標があるから、コミュニケーションが必要になります。

この授業は、多文化コミュニケーション入門というタイトルです。文化との関連で言えば、私は、みんなが見つけた社会それぞれが文化を持っていると考えます。レポートを書くことで、この社会は自分にとってこんな場だと捉えました。その捉え方こそが、その社会の文化と言えるのではないのでしょうか。その捉え方も、次の瞬間に変わりうるような揺らいでいるものかもしれませんが、みなさんがみなさんの捉え方で理解した社会の姿が、その社会の文化なのだと思います。

自分がコミュニケーションしたい社会とはどんな場なのか、つまり社会の文化を見つけること。そして、そこでどう生きていきたいのかを考えること。多文化コミュニケーション入門では、クラスの一人ひとりがコミュニケーションしていく場＝社会＝文化と、そこで目的を見つけることを目指しました。

私がこのクラスでもう一つ目指したのは、多文化コミュニケーションを実践してもらう

ことでした。

クラスの中で、グループの中で、自分の中で、レポートのテーマである社会について語り合うということをやってきました。クラスにはいろんな価値観をもった、つまりいろんな文化をもった人たちがいます。グループにも。そして自分の中にも。この1学期の間に、この人（たち）にとって大切な社会はどこだろう、そしてなぜだろうと、お互いにことばで伝えあってきました。お互いの社会を語りながら知り合っていく過程で、クラス、グループ、自分という、新しい社会=文化を作ってきたとは考えられないでしょうか。社会についてのレポートを対象に語り合いながら、新たな社会=文化を作ってきた。コミュニケーションをしながら、自分/グループ/クラスという社会の文化を作ってきたというプロセスを、私は多文化コミュニケーションの実践だったと位置づけています。

人数も多くて、十分にコミュニケーションできたとは言えないかもしれませんが、これがこのクラスの目標でした。私自身はみんなのレポートを読んで、ある程度それが達成できたように思っています。

何かすでにきちんと存在していく社会に、自分がすっぽり収まるというのは不可能です。きちんと存在していると考えているのは、あなただけかもしれないのですから。すっぽり収まろうにも収まるための社会は、常に一人一人のイメージとして揺らぎ続けています。その揺らぎの中で、では今は自分としてその社会をどのようなものとして捉えるのか、何をしたいのかを、その時々ではっきりさせた上で、それをほかの人に伝えて目標をかなえる道筋を探り続けてほしいと思っています。

2012年2月1日
吹雪の秋田大学にて